



大久保小だより

学校教育目標 **カいっぱい かしくく やさしく たくましく**
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

令和2年3月2日第13号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関21

048(854)7636

男子131名女子100名 計231名

やさしい心の持ち主

校長 金子 要一

新しい学習指導要領では道徳が教科化され、「特別の教科 道徳」として登場しました。小学校学習指導要領総則の「道徳教育に関する配慮事項」の中に、低学年は「善悪を判断し、してはならないことをしないこと」「社会生活上のきまりを守ること」、中学年では「善悪を判断し、してはならないことをしないこと」「集団や社会のきまりを守ること」、高学年は「法やきまりの意味を理解して進んで守ること」と書いてあります。

「特別の教科 道徳」では「主として集団や社会との関わりに関すること」の「規則の尊重」の中に、低学年は「約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にすること」、中学年は「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること」、高学年は「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」と記述されています。社会科や特別活動でも関連した内容を取り扱います。

そしてこれらは、「法に関する教育」とも関連づけられています。「法教育」は、次代を担う子どもが、法やきまり、ルール及び司法について学び、自由で公正な社会の担い手としての資質や能力を身に付けることを目的としています。集団生活を円滑に過ごすためにきまりがあります。社会全体なら法です。学校なら学校のきまり、クラスならクラスのきまりです。それを守らないと、他の人に迷惑をかけたり、自分自身が困ることもあります。物事が予定通りにいなくなることもあります。

しかし、できればきまりは無い方がよいのです。みんなが自分のことだけを考えるのではなく、周りの人のことを考え、思いやりの心をもって生活すればきまりは必要ではなくなるはず。すべての人が、安全で安心な世の中になるよう心掛けて生活すればよいのです。道徳教育の目標は、「自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことです。

詩人の吉野弘さんの『夕焼け』という詩に「やさしい心の持ち主」という表現が出てきます。詩の鑑賞はともかく、私はこの表現が好きです。大久保小のみなさんには「やさしい心の持ち主」になって欲しいと願っています。

さて、今年度も本校の特徴的な取り組みを新聞等で取り上げていただきました。左は「シェフ給食」(埼玉新聞)、中央は「お正月遊び」(東京新聞)、右は「浦和北高校でのプログラミング学習」(読売新聞)です。来年度も、元気な大久保小の様子を学校内外に発信できたらと思っています。

埼玉新聞

一流仏料理に大満足

地元シェフが給食提供

桜区 大久保小

「シェフ給食」の記事内容の抜粋。大久保小の給食が地元シェフによって提供されていること、その品質の高さや子どもたちの喜びが紹介されている。

東京新聞

昔ながらの正月遊び 児童楽しむ

「友達と対戦 かるた面白い」

さいたま

「お正月遊び」の記事内容の抜粋。大久保小の児童が伝統的な正月遊び「かるた」を楽しんでいる様子が紹介されている。

読売新聞

プログラミング特別授業

ロボ技術先生は高校生

さいたま市立大久保小

「浦和北高校でのプログラミング学習」の記事内容の抜粋。大久保小の児童が浦和北高校でプログラミングの特別授業を受けている様子が紹介されている。